

産地戦略

実施期間 令和4～5年度

実施主体 愛知県
都道府県 愛知県
対象地域 全域
対象品目 水稻



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

● 化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

カメムシ類による不稔籾と斑点米の発生による減収と品質低下を、栽培管理支援ツールAgrilookの水稻出穂期予測を活用し、効果的な防除体系を確立することで被害の抑制と防除回数の削減する。またドローンを使った防除で防除時間を削減する。

現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	田植			出穂		収穫							
技術				カメムシ防除回数 被害地区3回									

グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	田植			出穂		収穫							
技術名				カメムシ防除回数 被害地区2回									

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R5	目標R10	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）	27400	▶	
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	55	▶ 100	
環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha）		▶	
省力化に資する技術の取組面積（ha）		▶	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境	カメムシ類の防除適期がわからず防除回数が増加している	ドローンを使った省力防除と栽培管理支援ツールAgriLookによる出穂期予測とカメムシ類の発生活長に基づいた適期防除	化学農薬の使用回数の削減 防除時間の削減

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境	適期防除によるカメムシ類防除回数の削減	3	▶ 2	出穂期と出穂期10日後の2回防除の実施 出穂期の予測にAgriLookを活用 液剤防除が効果が高い 液剤防除ができない場合は粒剤を使用する
省力	ドローンを使った2回防除	55	▶ 100	乗用管理機防除に比較し37%削減 (主たる従事者1名の労働時間で計算)
			▶	
			▶	

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する
(有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする)

* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

栽培ごよみに記載する
栽培講習会、防除研修会での防除指導

関係者の役割

関係者名	愛知県（農業革新支援センター）	普及指導センター	JA	JAあいち経済連
役割	検証にかかる調整、とりまとめ	実証ほの調査、進行管理	農業者との調整、調査補助	技術支援、検討会への参加

その他